

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-43

学校名・団体名	各務原市立蘇原第二小学校
HPアドレス	<a href="http://www.mirai.ne.jp/~so2sho/">http://www.mirai.ne.jp/~so2sho/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自然のすばらしさを全身で学ぶ 「蘇二っ子トープ」
<b>〈活動・研究の意義、目的〉</b> 全教育活動を通して、『蘇二っ子トープで生き物（や人）とかかわりながら、自然（や人）のすばらしさを全身で感じ、蘇二小の自然をみつめ、いきいきと学ぶこと』が大きなねらいである。たとえば、教科等では、低学年では生活科で、中学年以上では、特に理科学習とともに「総合的な学習の時間」で蘇二っ子トープを活用し、問題解決能力を身につけ、身近な自然のすばらしさを体験的に学ぶことがねらいである。	

## 1 活動を通して身につけたい力

全教育活動を通して、蘇ニッ子トープの事象から子どもたちに身につけたい力は下記の4つである。

<感じる力>・五感を通して地域の自然・社会・人とのかかわりを感じながら価値あるものを見つけ出す力

<実現する力>・願いを実現するために、計画・実践・振り返りを重ねながら、粘り強く課題を追究していく力

<創り出す力>・活動を通して試行し、自分なりの方法を考えたり、自分の考えをまとめたりする力

<かかわる力>・共に生きる態度で、主体的に人と関わる中で、互いの違いやよさを認め、高め合い前向きに取り組む力

## 2 活動の実際と変容(生活科、総合的な学習、理科、委員会の活動内容例を示し。他は略す)

### (1) 生活科の授業の活動例：1年生「たのしさいっぱい あきいっぱい」

#### <活動の具体的内容>

「木の実や落ち葉で秋らしいおもちゃやかざりをつくって遊ぼう」というねらいで、蘇ニッ子トープの木の実(アラカシ、コナラ、アベマキ)や紅葉した葉(ソメイヨシノなど)を使って、どんぐりめいるやどんぐりボーリング、どんぐりごまなどを作って遊んだ。また紅葉した葉もつけて秋らしく工夫して楽しんで遊ぶことができた。

#### <活動後の子どもの変容>

どのようにすると秋らしいおもちゃやかざりになるのかを体験的に学び、仲間と一緒に夢中になって遊ぶことができた。また、気付きの質が高まった。たとえば、「なぜ、赤い葉と小枝を使ったの?」と問いかけることで、一つ一つの気付きから秋と関連づけられた気付きへと高まった。<感じる力>と<創り出す力>の基礎・基盤となる部分が身についた。

### (2) 総合的な学習の活動例：3年生「身近な自然とともに(ぼくの木、わたしの木)」

#### <活動の具体的内容>

蘇ニッ子トープを含めた校庭の樹木を自分の木(ぼくの木、わたしの木)と決めた。そして調べる課題を決めて、1年間、毎月定点観察した。はじめに観察の仕方や方法を学び、記録方法も学んでから毎月継続して観察した。

#### <活動後の子どもの変容>

たとえば、イロハカエデの葉をくわしく継続観察して、イロハカエデの紅葉は、日光があっている部分から紅葉していくことに気づいた子がいた。また常緑のクスノキが、秋に部分的に紅葉したり、一部葉を落葉したりすることに気づいた子もいた。観察の仕方を焦点化して粘り強く、観察することができるようになり<実現する力>が身についた。

### (3) 理科学習の活動例：4年生「いきものと季節」

#### <活動の具体的内容>

「身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。」ことがねらいであり、蘇ニッ子トープの生き物を暖かい季節と寒い季節に定点で比較観察した。

#### <活動後の子どもの変容>

昆虫は卵や蛹の状態越冬するものがあることや鳥類は季節によって見られる種類が違うこと。季節によって植物の成長の仕方に違いがあることをとらえられた。それらをうまくまとめて表すこともできた。<感じる力><創り出す力>が身についた。

### (4) 委員会活動例：自然環境委員会「蘇ニッ子の木キャンペーン」

#### <活動の具体的内容>

委員会発表で蘇ニッ子トープのすばらしさを自然環境委員会が全校朝会でクイズ形式で発表した。また、蘇ニッ子の木キャンペーンを企画し全校に呼びかけ、蘇ニッ子の木を完成させ、蘇ニッ子トープの生き物に対する全校の興味・関心を高める働きかけをおこなった。

#### <活動後の子どもの変容>

蘇ニッ子トープをさらにきれいに守ってほしいと、自然環境委員会の子が、休み時間にパトロールすることがあった。委員会が「蘇ニッ子トープをさらにきれいに」とよびかけたおかげで、池の中の落ち葉とりのお手伝いをしたり、池の中のアメリカザリガニの駆除を手伝った子がうんと増えた。また、蘇ニッ子の木キャンペーンで完成したものを渡り廊下に掲示した。このことでコミュニケーション力に関わる<かかわる力>が身についた。\*【上記の写真2枚参照】

## 3 蘇ニッ子トープを守る会、PTA等の方々への協力要請や地域の方々への啓発について

この学校には「蘇ニッ子トープを守る会」という団体があり、例年活動している。年に数回例会を開き、夏期休業中にPTAの協力をえて、奉仕活動を行っている。蘇ニッ子トープの中の池の水を、かい出し帰化動物のアメリカザリガニ等を自然の循環システムで排除した。「蘇ニッ子トープを守る会」の方々には、学校の取り組みを報告し、補強工事をしたり、水生生物を導入したりしている。地域の方々へは、「蘇ニッ子トープだより」を学校HPでお知らせし、生き物の保護保全の啓発をしている。ちなみに「蘇ニッ子トープだより」は110号を超えている。

## 4 今後の活動

子ども自らが蘇ニッ子トープでの課題をもち、自分から進んで発見し解決する全身で体験する活動をしていく中で、<感じる力><実現する力><創り出す力><かかわる力>の4つの力を身につけていけるような体験活動をさらに継続構築していく。

